

教科・「科目」	国語・「国語総合」	単位数	学習形態	学年	履修系列、必修・選択の別等
		4	座学	1年	全員（必修履修科目）

1. 目標と評価規準

目標	国語における基礎を充実させ、国語を的確に理解し適切に表現する能力を伸ばすとともに、自己を取りまく状況を認識し、自らの生き方・在り方を考える姿勢を育む。また様々な文章を読むことによって言語感覚を磨き、言語文化及びコミュニケーションに対する関心を高める。				
評価の観点と比重	評価規準			評価の方法	
関心・意欲・態度 (20%程度)	国語で伝え合う力を進んで高めると共に言語文化に対する関心を深め、積極的に言語活動に取り組む姿勢を持っているか。			授業態度・提出物・小テストなど	
話す・聞く能力 (10%程度)	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして考えをまとめ、深めているか。			音読・スピーチ・暗唱など	
書く能力 (10%程度)	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているか。			要約・作文・授業ノート等	
読む能力 (10%程度)	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させることができているか。			授業ノート・要約など	
知識理解 (50%程度)	伝統的な言語文化や言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、必要な漢字、語句、文法、修辞などを身につけているか。			定期テスト・課題テストなど	
使用教材等	教科書「標準国語総合」(第一学習社)・補助教材「国語便覧」(東京書籍)				

2. 年間指導計画

学期	月	単元・教材名	配当時間	主な学習内容	ICT利活用の概要
1学期	4	随想「世界は謎に満ちている」手塚治虫	8	【関・意・態】広い視野に立ち将来に目を向ける 【読む】随想の読み方を習得する	○授業形態 I 一斉授業 下記に示した使用機器を活用し、教科書内容を提示、理解を図る。 II 協働学習 教師の問いや話し合いにおける自分の考えを学習者用端末に書き込み、授業支援システムで電子黒板に映し出し、共有する。 III 個別学習 学習者用端末を活用して、調べ学習や演習問題などを行う。 ○使用機器 電子黒板 学習者用端末
	5	古文「古文の学習」 「児のそら寝」 漢文「漢文の学習」 「訓読に親しむ」	16	【関・意・態】 ・現在の生活との接点を把握し古典を学ぶ意義を理解する ・古文の調子や歴史的仮名遣いを理解し音読ができるようになる ・漢文の特徴を理解し書き下し文や現代語訳ができるようになる 【読む】 ・本文に即して読み話の面白さを味わう	
	6	評論「水の東西」山崎正和	16	【関・意・態】日本文化の特徴の理解を深める 【読む】二項対立的な評論の読解方法を習得する	
	7	古文「なよ竹のかぐや姫」 漢文「五十歩百歩」	10	【関・意・態】なじみのある作品を読み、古文に親しむ 【知・理】 ・既習の知識をもとに、部分的な口語訳ができるようにする ・活用概念・係り結びを理解する。 【関・意・態】故事の本来の意味を理解する 【読む】本文に即して読み漢文の表現に慣れる	
2学期	9	随想「黄色い花束」黒柳徹子 評論「コミュニケーションは創造的に」伊藤進	14	【関・意・態】筆者の活動について理解を深める。 【読む】筆者の感じたことや本文中でのエピソードの役割を理解する 【関・意・態】現代のコミュニケーションにおける問題点を理解する 【読む】筆者の主張を読み取る	○活用目的 教職員の説明資料 学習者の説明資料 繰り返しによる定着 創作
	10	古文「徒然草」 漢文「唐詩の世界」	16	【関・意・態】 ・読解を深め、ものの見方考え方を広げる ・助動詞について理解し、口語訳に生かす 【読む】随筆の内容のおもしろさを理解する 【関・意・態】漢詩の決まりを理解し、音読する 【読む】詩人に対する知識を深め情景を味わう	
	11	小説「羅生門」芥川龍之介	16	【読む】 ・代表的な近代小説から基本的な読解方法を習得する ・登場人物の心情を的確に捉える 【知・理】芥川龍之介に対する理解を深める	
	12	古文「伊勢物語」 漢文「鶏口牛後」「完璧」	12	【関・意・態】和歌を味わい、修辞技巧を理解する 【読む】話の内容を読み取り歌物語を理解する 【関・意・態】・歴史的背景に関心をもち理解する 【読む】話の面白さを理解する 【知・理】句形の読み方・意味を理解する	
3学期	1	評論「科学は正しいか」養老孟司	12	【関・意・態】物事を多面的に眺める態度を養い、自分の生き方に生かす 【読む】筆者の考えを理解している	
	2	古文「万葉・古今・新古今」 漢文「論語」	10	【関・意・態】和歌の優れた表現に親しみ、和歌に詠まれた感情や情景を読み取る 【知・理】和歌の修辞技巧や各時代、各歌集の特色を理解する 【関・意・態】中国の思想を代表する儒家思想の概略を捉え、孔子の思想の現代でのあり方を考える	
	3	韻文「清水へ(短歌)」 「手毬唄(俳句)」 漢文「論語カルタ」	10	【話す・聞く】自分の選んだ歌や句についてその良さを伝える 【関・意・態】論語かるたを覚え、積極的に取り組む	

備考

- ・辞書(学習用PC)や便覧を持参し必要に応じて調べる。
- ・配布するプリントは必ずファイルする。
- ・読み、書き、発表などの活動を通して国語力を伸ばす。
- ・評価は、定期考査だけでなく、平常態度・提出物・小テストなど普段の授業での取り組み全て含む。

教科・「科目」	国語・「郷土芸能」	単位数	学習形態	学年	履修系列、必修・選択の別
		2	実技	1・2・3	自由選択科目

1. 目標と評価基準

目標	多久の郷土芸能である『積菜の舞』の演舞を習得する。多久の伝統文化と由来する孔子の思想に関心を深めることで郷土愛を育む。また、中国の伝統文化といえる中国武術の太極拳を、扇子を使った『太極功夫扇』・剣を用いた『太極剣32式』を学び中国文化に触れ、日本と中国の関係について考える。	
評価の観点と比重	評価基準	評価の方法
関心・意欲・態度 (30%程度)	郷土を愛し、そこに根ざす芸能に興味・関心を持ち、意欲的に活動しようとしているか。	授業態度 等
思考・判断 (20%程度)	舞・演技の動作の意味を理解し、舞手全体の動作が把握できるか。	行動観察 等
技能・表現 (40%程度)	優雅で風格のある舞を正確に演じ、細部まで表現することができるか。 (積菜) 武術としての動作を覚え、正確に美しく且つスムーズに表現できるか。 (太極拳)	演舞披露 行動観察 等
知識理解 (10%程度)	「積菜の舞」、「太極功夫扇」、「太極剣32式」の演技手順を覚えているか。それぞれの動作の意味を理解しているか。	行動観察 等
使用教材等	自主作成教材	

2. 年間指導計画

学期	月	単元・教材名	配当時間	主な学習内容
1 学期	4	郷土芸能について 「春季積菜」に「積菜の舞」 奉納及び見学(学校休業日のみ)	5	○郷土芸能のガイダンス(年間計画・評価等の説明) ○4月の「春季積菜」を見学し、多久聖廟で300年以上続く「積菜」に直接触れて郷土芸能の意義を理解し、多久の歴史や文化に興味を持つ。 ○舞・演技の手順を覚え、手や足のさばき方等、細部まで表現する。
	5	「積菜の舞」(一段、二段) の習得 「太極功夫扇」の習得	8	○舞・演技の手順を正しく覚え、手や足のさばき方等、細部まで表現する。
	6		8	
	7		5	
2 学期	9	「秋季積菜」に「積菜の舞」 奉納	8	○演舞の優雅さを味わい、雅楽の音色にあわせて舞う。 ○衣装の着方を覚える。美しく着こなす。 ○地元中学生との合同練習を通して中学生と積極的に交流したり指導をしたりできる。 ○舞手全体の動作の把握ができる。 ○大勢の観衆の前で、堂々と舞を表現できる。
	10	地元中学生との合同練習 本番へ向けたリハーサル	9	
	11	「太極功夫扇2」の習得 「太極剣32式」	8	○演技の手順を覚え、音楽に合わせて正確に表現できる。 ○扇子や剣の扱い方や、動作の意味を理解し、細部まで表現できる。
	12		5	
3 学期	1	「太極功夫扇2」の習得 「太極剣32式」	6	○全体の手順を理解する。 ○全体を通して正確で風格のある演技をする。 ○舞・演技の総仕上げ・総復習。一年間の振り返り。
	2		5	
	3	「積菜の舞」(二段)の習得 「積菜の舞」(一段)の復習	5	

備考	<p>○毎週水曜・金曜の7限目の授業です。</p> <p>○原則として水曜に「太極拳」、金曜に「積菜の舞」を行います。2学期は、秋の積菜までは「積菜の舞」を中心に、その後は「太極拳」を中心に習得します。</p> <p>○「積菜」で奉納されている『積菜の舞』を習得し、多久聖廟で開催される「積菜祭」で奉納演舞を演じます。</p> <p>○中国の伝統文化といえる中国武術の太極拳を、扇子を使った『太極功夫扇』・剣を使う『太極剣32式』で学びます。</p> <p>○受講者の授業に対する積極的な姿勢・授業への参加態度・参加状況を評価に反映します。</p>
----	--